

第2回 加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会 会議録

日 時 令和4年10月3日（月）9時00分～12時05分

場 所 善防公民館 大研修室

委 員	委 員 長	松岡 広路
	副委員長	谷勝 公代
	委 員	岡本 教穂
	委 員	藤本 文俊
	委 員	櫻井 臣義
	委 員	岩佐 文雄
	委 員	国田 徹也
	委 員	植田 美紀子
	委 員	菅野 将志
	委 員	達可 有呉
	委 員	泉 育代
	委 員	藤田 亮
	委 員	大藤 由美
	委 員	前田 恵美
職 員	教育長	民輪 恵
	教育部長	千石 剛
	生涯学習課長	北島 悦乃
	生涯学習課課長補佐	高見 和哉
	生涯学習課	近藤 優佳

1. 開会

2. あいさつ

（生涯学習課長）

おはようございます。本日はお忙しい中、朝早くからお集まりくださりまして、ありがとうございます。

8月17日に開催いたしました第1回加西市公民館・オークタウン加西のあり方検討委員会から約1か月半空きまして、本日、第2回の会議を迎えております。

前回は、皆さんが感じている課題等をいろいろと出していただきました。本日は、前回の内容を踏まえてグループワークを行います。グループワークの課題に対して、皆さんの忌憚のない意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

3. 本日のねらいについて

(委員長)

みなさん、おはようございます。

これからの会議では、お一人お一人のお考えやご意見をしっかりと出していただき、それらを重ね合わせて、加西市の未来の公民館像を出していければいいなと思っております。

誰が何を言ったかではなく、何が言われたかということが重要になります。それぞれ、思い付いたこと、あるいは深く考えてきたことをその場で話していただき、それが位置づけられていくことが大切になりますので、たくさん意見を言っていただければと思います。よろしくをお願いします。

前回の会議では、皆さんにいろいろな課題を出してもらいました。課題が明確ではないのに、ただ単純に理想のことを言っても仕方がないので、今日は、まず始めに前回のおさらいをします。そして、課題を明確にした後に、理想の公民館の具体的な特徴をみんなで洗い出していきます。

理想の公民館とはどのようなものなのか。現状から理想に変化させていくためには、具体的にどのような戦略があるのか。短期的、中期的、長期的に戦略を練り、これらをまとめたものを来年3月に提出する報告書にしたいと思っています。

ただ理想の公民館だけ言うのであれば、全国公民館連合会などによって、ある程度まとめられたものがあります。しかし、それぞれの地域によって環境は異なります。我々が持っている資源でどこまでのものを作り上げていくのか、どれくらいの期間で作り上げていくのか、現実的なことを考えないといけません。それは、おそらく皆さんがもうわかっていることだと思います。それらを重ね合わせて作り上げる必要があるのです。入れられるかわかりませんが、もし公民館に温泉があったら、もし宿泊が出来たらなど面白いアイデアも出していただければと思います。

理想の公民館を作りましょうという、みんなが言っていること、あるいは誰か1人の良い意見だけで進めてしまいがちです。どちらも魅力的なのですが、それだけだと加西市の公民館や社会教育を考えていくうえで、こぼれ落ちるものが出てきます。しかし、小さな言葉もすごく重要なものになる可能性がありますから、これを大切にしながら、「私の意見から私たちの意見」をまとめていく流れにしたいなと思っています。

しっかりとまとめた意見を持っていらっしゃる方にとっては、少しもどかしと思う時もあるかもしれませんが、急がば回れです。ゆっくりとそれぞれの意見を聞くような時間にしていければいいなと思っていますので、ご協力ください。よろしくお願いたします。

4. グルーピング

～3グループに分割～

5. グループワーク

テーマ（１）加西市の公民館の問題と課題

～各グループで意見を出し合い、その後、全体で内容を共有～

テーマ（２）次世代にどんな公民館をプレゼントしたいですか？

～各グループで意見を出し合う～

6. シェア・発表

グループワークのテーマ（２）について各グループ２分程度で発表（作成した模造紙を前に掲示）。その後、質疑応答を行う。

【第１グループ】

○発表内容

「居心地のいい公民館」

- ・クラシックやポップスなど様々なジャンルの音楽が流れていたり、コーヒーが飲めたりくつろぐことができる。
- ・敷居が低く、用がなくてもふらっと立ち寄ることができる。
- ・井戸端会議などもできて、人と繋がることができる。
- ・何かあれば公民館に相談して、アドバイスまでもらうことができる（わからないことがあれば公民館へ相談しようという気が起こる場所になる）。
- ・フィットネスやシャワーを設備することで、運動をして汗を流し、シャワーを浴びて帰ることができる。

「ここにもある居場所公民館」「居場所をプラス」

- ・公民館が、学校や家、職場以外の第三の居場所になる。
- ・学校や家、職場に居辛い方にとって、公民館がひとつの居場所になればいい。
- ・公民館活動によってワクワクもプラス。
- ・公民館活動の集大成としては、小学校区いろいろなどところに行ってお出前講座のようなことが出来ればいい。

○質問・感想

（委員 B）

気軽に寄ることができる公民館というのは、すごく良いことだと思います。

（前に貼られている模造紙を見て）心理的にバリアフリーというのは難しいなと思ったのですが、具体的にはどういうことでしょうか？

（第１グループ）

それは、講座に参加するなどの特別な用事が何もなくても、気軽に立ち寄ることができるということです。

（委員長）

心理的バリアフリーということに関連して、先程、別のグループで「世間体」が課題とし

て挙がっていたようなのですが、これは具体的にはどのようなことでしょうか？

(委員 A)

いろいろな学習施設があるなかで、公民館が一番身近な存在である分、一般的というか高級感がないと感じます。いなみの学園に通っていると言うと、勉強していてすごいという反応をされるけれど、公民館に通っているという微妙な反応をされるようなところがあるのではないかと思います。

(委員長)

公民館は身近なところだけれど、その分あまり思い切ったことも出来ないということですね。こういうことをしたいと思うのだけれど、公民館でやるのは躊躇してしまう。

心理的バリアフリーとは少し意味が違うかもしれませんが、本当にやりたいことが生まれた場合は、別の場所ですするというのが公民館の定めというところがありますね。

【第2グループ】

○発表内容

「いつでも集える・誰でも集える公民館」

- ・気軽に立ち寄ることができる。
- ・誰とでも繋がることできる、人と人の繋がりがある。
- ・仲間と一緒に学ぶことができる、学生たちも学校で学べなかったことを仲間と一緒に学ぶことができる。
- ・地域の人を活かす、公民館で学んだことを地域に還元するという観点から、地域の方々が講座の先生になる（みんなが先生になり、みんなが生徒になるということが理想）。
- ・講座があった後に宿泊ができるなど多様な設備がある。

「IT を駆使して誰もがつながる公民館」

- ・どこにいても IT を使って繋がることできる。
- ・来ることができる人はいいが、来ることが出来ない人のために、発信型の公民館になる。
- ・IT を駆使して情報提供ができるプラットフォーム型の公民館になる。

○質問・意見

(委員 C)

先程の世間体が課題という話の中には、身近すぎて周囲に見られている感じがするので、公民館に行くのが恥ずかしいという意味も含まれていました。そのため、IT を活用するというのは、利用の促進に繋がるのではないかと思いますし、面白いなと感じました。

(委員長)

10年前から想像出来ないくらいに IT 技術が進歩していますよね。あまり、現実的ではないかもしれませんが、バーチャル公民館と言って架空の公民館を作るような試みもあります。そこには想像がつかないくらいの可能性が開かれているような気がします。

いつでも、誰でも集える公民館というのはキャッチコピーになればいいのですが、実際は

どんな人が来るのでしょうか。その人たちのニーズに応えることが必要なのかなと思いました。

【第3グループ】

○発表内容

「集える・楽しめる場所」

- ・公民館に魅力がないというわけではなく、さらに世代を広げたり、他にはないもの、あるいは昔あったものを+αで付け加えたりすることで、気軽に立ち寄れる場所にする。
- ・そのために、レストランやカフェがあったり、宿泊ができたり、行政サービスが受けられたいできるようにする（交通弱者が増えてきたなかで、公民館で行政サービスが受けられるということは、非常に魅力になるのでは）。
- ・4つの公民館それぞれの特色を出した魅力的な講座がある（あの公民館に行ったらあの先生の講座が受けられるというようなイメージ）。
- ・大人も子どもも学ぶばかりではなく、学んだ人が教える側になる、学び合える公民館。
- ・子どもが利用できるように、学童保育、学習塾、子ども食堂、保育園などの機能がある。
- ・三世代交流ができる。
- ・高齢者だけではなく、性別や世代を問わずたくさんの方が集まることできる。

○質問・意見

（委員 D）

レストランやカフェは利益を上げるので、実現することは難しいと思うのですが、それが講座と上手く繋がること出来ればいいのかと思いました。

（委員長）

営利的なことをするのは難しいということに気づいてくださったのですね。そこで、講座から繋げればいいのかということですね。場所は公民館ではなくてもいいので、工夫をすれば、講座を受講した人が何かできるかもしれませんね。

7. 総合討議

（委員長）

今、3つのグループから次世代にプレゼントしたい公民館を発表してもらいました。僕は柱が見え始めてきたように感じているのですが、皆さんはいかがでしょう。

ひとつの場所でさまざまなサービスが受けられるワンストップサービスと言われるものがあります。これが、最近マイナンバーカードも含めて、IT を使って何でもサービスしようというスタイルに変わってきているのですが、それだと、皆さんついていけないですよ。そこで、公民館が行政のワンストップサービスを高めていくための場所となるということも考えられますよね。

公民館に行ったら、年金の相談が出来たり JA などの情報が入ってきたりといったことも

できれば面白いですね。それらのいくつかの機能を高めた公民館を一言でいうと、プラットフォーム型公民館といいます。いろいろなものが入り出て、いろいろな情報が行き来することができる、そういう場にしていきたいなと思いました。

みなさんの課題意識ですごいなと思ったのが、いつでも、だれでも入ることができる公民館というところです。先程の発表のなかで「居場所をプラス」ということが出ていましたよね。今いる場所以外にも居場所があって、それが公民館ですよ、と。違う言い方をすると、学校や職場、家庭が居場所になっていない方にとって、公民館が居場所になっていくというニーズがあるのだなと思いました。

あるいは、福祉ネットに繋がっていくニーズもあるのだなということがわかりました。人々の普段の暮らしを幸せにしたいという福祉の仕組みと公民館活動がどこかで繋がっていかねば、機能しなくなります。実は、社会教育の公民館の歴史を考えると、福祉はいつも足りないといわれていたのです。現実には、高齢者の方たちや学校に行けなくなった人たちが、あるいは友達がなかなか作れない、居場所のない人たちが、学び合う、励まし合うことができるということが公民館の価値でもあると思うのですよね。

一方で、公民館は、SDGsのような地球規模の大きな課題と結びつくようなきっかけが生まれる場所でもあります。それには、先程の発表でもありました「ITを駆使する」ということもすごくいいと思います。

また、善防公民館は、地域の方たちだけではなく、善防山にハイキングに来るお客さんもご利用されているとのことですが、これは善防公民館の特徴ですよ。こういう風に障壁を取り除くということは、とても大切だと思います。

そして、一般的に、これから公民館を新しく変えていくという時に大切な観点がいくつかあります。

1つは、新しいことを体験できる空間になっているか否かです。誰もが先生というところに繋がることですが、誰もがすごい体験を持っていることがわかるような場になっていけば、素敵だなと思います。

2つ目は、人との出会い・交流の場であることです。同じような人ばかり集まっているのではなく、いろいろな人が集まり交流ができる場所であるということが重要です。

3つ目は、関心が広がることです。公民館に来るとたくさんの情報があり、自分の関心が引き起こされるかどうかです。

4つ目は、希望や笑顔が広がることです。あれもこれもしたくなること、また、難しいことではありますが、自然な笑顔を引き出すことができる空間ができるかどうかです。

5つ目は、知識やスキルが獲得できることです。あるテーマについてしっかり考え、学ぶことができる公民館になっているかどうか。これについては、公民館だけでは難しいと言われており、専門的な組織と繋がらないといけません。

6つ目は、新しい活動が生まれることです。公民館に出かけると新しい活動を生み出そうという空気があり、それに触れることができる場所になっているかどうかです。

7つ目は、世代間の連携です。世代間の連携というのは少し難しいところがあるので、そのためにどのような工夫をするかというところが問われます。

8つ目は、グローバル、地域間連携です。もし加西市に外国にルーツを持つ方が大勢いらっしゃれば、すごく大きな資源になります。あるいは、善防山に登る人の中に、外国の方が多いと、その人たちを巻き込むのも面白いです。これは、地域によって違いますが、狭い地域だけではなく、遠い地域とどう繋がっていくのかという課題があります。

これら全部を網羅する必要はありません。ただ、これらの観点を大切にすると、地域のなかで何を大切にしたいのか、私たちはどんな活動をしようとしているのかが徐々に見えてきます。そして、そこと地球規模の持続可能な社会作りが全部繋がります。それらを重ね合わせた時に、加西ではどんなことができるのか、どんなことを強調していくのかがきっと見えてくるはずですよ。

今後の流れとしては、理想の公民館をベースにして、より具体的な取り組みを考えていかなければなりません。そこで、もう少し理想の公民館を突き付けるべきか、それとも、ある程度の理想像を設定し、具体的な戦略を考えるべきか、皆さんはどちらが良いと思われますか。

もし、もう一度理想の公民館を考えるのであれば、皆さんに全国にはどのような公民館があるのか、それを調べていただいたうえで考えるという場合もあります。

(委員 C)

もっと他の公民館が何をしているのかなどを調べて知っておきたいという気持ちはあります。ただ、理想像作りに注力しすぎると、現実とかけ離れていることになってしまうこともあるかと思うので、ある程度、他の公民館がどんなことをしているのかも調べながら具体的な戦略を考えていけたらなと思います。

(委員長)

そうですね。非現実的な理想像と現実を繋げ合わせようとする、切れてしまう場合があります。具体的に実現できる公民館を考えるために、戦略を考える必要があります。

とりあえず、スケジュールに入っていたから来るというのでは降ってきませんが、一生懸命考え続けていると、やっているうちにアイデアが降ってくるはずですよ。

報告書は、様々な意見を取り入れたいと思っていますので、どのような意見が出たかが大切になります。奇抜なアイデアが出てくるとも期待しています。

それでは、次回以降は、もう少し加西の公民館はどうあるべきかを考え、そのうえで、短期、中期、長期の具体的な取り組みもしっかり考えたいと思います。

8. ふりかえり

～ふりかえりシートを記入～

9. 閉会

(教育長)

先生、委員の皆さま、本日はありがとうございました。

私は、民間企業出身で、初めての女性教育長でもありますので、役人の世界では異端だと思っています。それでも、どうしてこれまでやっていなかったのかと感ずることがたくさんあります。その中で一番大きいことが、公民館でした。何もしなくても公民館はありますし、人もいます。だったら、なぜもっと公民館を有効な場にできないのかと感ずっていました。

一方で、このあり方検討委員会は、とても大変なことだとも感ずています。学校教育は、ある程度まとめることができると思いますが、公民館は、いろいろな世代の方が利用されていて、また、いろいろな体験をなさってきた大人が相手ですので、なかなか難しいです。それは、覚悟はしているのですが、今日の会議の様子を見せていただいて、本当に皆さんいろいろと考えていらっしゃるのだと感ず、これならこれから大丈夫だと思いました。

ただ、もっと予算がないと出来ないということもあるかとも感ずいますので、そのあたりは、こちらにどんどん要求をしていただければと思います。

よろしくお願ひいたします。